

1分科会 研究課題「教育課程に関する課題 1B」
研究主題 「GIGAスクール構想の実現」

宮崎支会 7班

1 主題設定の理由

一人一台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 ICT 環境の実現を目指す GIGA スクール構想が 2021 年度から、中学校でも全面実施となり、2 年が経過した。

また、「Society5.0」を見据えた「STEAM 教育」も提唱され、教育の変革は加速度的に進められている。宮崎市でも「未来の教室」をテーマに、中・長期的なビジョンで GIGA スクール構想の実現を目指している。

そこで、それぞれの学校での GIGA スクール構想実現へ向けた取組をまとめ、教頭としてどう関わっていけばよいかを明らかにするために本主題を設定した。

2 研究のねらい

GIGA スクール構想の実現に向けた各学校の取組とその取組に対する教頭の役割について考察し、教育活動の充実に資する。

3 研究の概要と成果

(1) 櫛中学校の取組

① 授業での活用

ア 各教科でロイロノートやキュビナを活用して授業改善を図った。

イ 作品やワークシートをタブレットで提出させたり、生徒の活動を動画で撮影したりして評価に生かした。

② 授業以外での活用

ア 講話や生徒総会での資料配付やアンケートの回答でタブレットを活用した。

イ 職員会議での資料配布をロイロノートで行った。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育推進リーダーが中心となり ICT 支援員の協力を得ながら、全体研修やグループ別研修など多様な形態での研修を実施した。

(2) 宮崎中学校の取組

① 授業での活用

ア 各教科で課題の指示や配付、提出等について、ロイロノートを活用して行った。

イ ロイロノートを用いて、生徒自身の考えを引き出したり、その考えの共有化を図ったりし、協働学習の推進の一助とした。

ウ Zoom を用いて授業の配信を行った。

② 授業以外での活用

ア Zoom を用いて、集会や生徒会発表等を実施した。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育推進リーダーや、タブレット端末操作のスキルを習得している職員が中心となり、デジタルスキルの向上を希望する職員を対象に、夏季休業中にサマーデジタルセミナー（SDS）を 6 回実施した。

イ 冬季休業中もウィンターデジタルセミナー（2 回）を計画している。

(3) 宮崎東中学校の取組

① 授業での活用

ア 次時の準備物の連絡や各教科で課題の指示や配付、提出等をロイロノートで行った。

【授業の例】

○ 国語の授業での意見発表を動画撮影し、提出箱へ提出させた。

○ 数学の授業での解き方等をロイロノートで集約し、考え方の共有を図る手段とした。

イ キュビナを活用し、生徒の進度に合わせた課題に取り組みさせた。

ウ 不登校により登校できない生徒に対して授業配信を行った。

② 授業以外での活用

ア 6 月、7 月、9 月は体育館の室温状況によって全校集会や学年集会、中体連の壮行会を Zoom で実施した。

イ 不登校傾向の生徒に対し、月に一度学級担任が Zoom を活用して面談を行った。

ウ 日報をはじめ、職員への連絡を校務支援システムと並行してロイロノートも活用した。

③ 研修体制の整備

ア 技術担当の職員や情報教育推進リーダー、研究主任がタブレット活用の効果的な活用について紹介し、全体研修やグループ別研修など多様な形態で実施した。

イ 小学校との共同で進めている職員研修にタブレット端末の活用の内容を入れ小学校連携して積極的なタブレット端末活用に取り組んでいる。

(4) 宮崎西中学校の取組

① 授業での活用

ア 各教科で課題の指示や配付、提出等をロイロノートで行った。

イ 英語科では、課題として生徒が録音または録画したデータを提出している。

② 授業以外での活用

ア 集会や生徒会発表等、Zoomを活用して実施した。

イ 週末課題の一つとして、キュビナに取り組ませた。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育推進リーダーや、タブレット端末操作のスキルを習得している職員で、全体研修を実施した。

(5) 東大宮中学校の取組

① 授業での活用

やむを得ず登校できない生徒へオンライン授業を行っている。

ア 生徒・保護者に文書で周知（7月）

イ 申請者本人・保護者面談（8月）

ウ オンライン授業の開始（9月）。各学年1学級の授業を配信。午前中教室の授業のみ配信。

② 授業以外での活用

ア 集会や行事にZoomを活用した。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育アドバイザーによる個人研修を行った。

(6) 宮大附属中学校の取組

① 授業での活用

ア 音楽ではガレッジバンドを活用して、音楽制作を生徒に行わせている。

イ 理科ではロイロノートをワークシートと

して利用しており、シンキングツールを使い探究の流れになるように工夫している。また、評価をつけて返却している。

ウ 全ての教科もロイロノートを教科独自で活用している。

② 授業以外での活用

ア NIEの取組で、生徒会専門委員会が委員会活動に関係する新聞記事をタブレットで撮影し、ロイロノートを使ってその問いを全校生徒に配信し、全校生徒がその問いに答えるという探究学習を行っている。

イ 欠席の生徒に、ワークシートや授業の板書等を、ロイロノートで送付している。

ウ 教育実習においても、実習生がロイロノートを使えるようにアカウントを取得し、実習授業で活用している。

③ 研修体制の整備

ア 情報教育担当が研修を行ったり、必要なスキルや、活用できるアプリなどをロイロノートやC4thで情報共有したりしている。

4 教頭としての役割

各学校の取組に共通した教頭の役割として、主に次の3点が挙げられた。

- 研究主任や教育の情報化推進リーダーへの助言による研修の推進
- 実践状況の確認とそれに伴う助言
- ICT機器の管理と関係機関との連携

5 今後の課題

GIGAスクール構想の実現に向け、教頭として次のような内容に対して、どのようにリーダーシップを発揮すればよいか、さらに研究を深める必要がある。

- 「個別最適な学び」、「協働的な学び」を意識した授業改善に向けた、ICTの効果的な活用方法についての職員研修の充実
- 誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校生徒等へのICTの活用
- デジタル・シティズンシップ教育の推進
- ハード面の整備等、より活用しやすい環境を整備するための関係機関との連携